

2013年3月期第3四半期 決算概要説明資料

2013年2月1日

 日立電線株式会社

目次

1. 2013年3月期第3四半期決算の概要
2. 2013年3月期決算の見通し
3. 事業構造改革進捗状況

1-1. 連結損益計算書

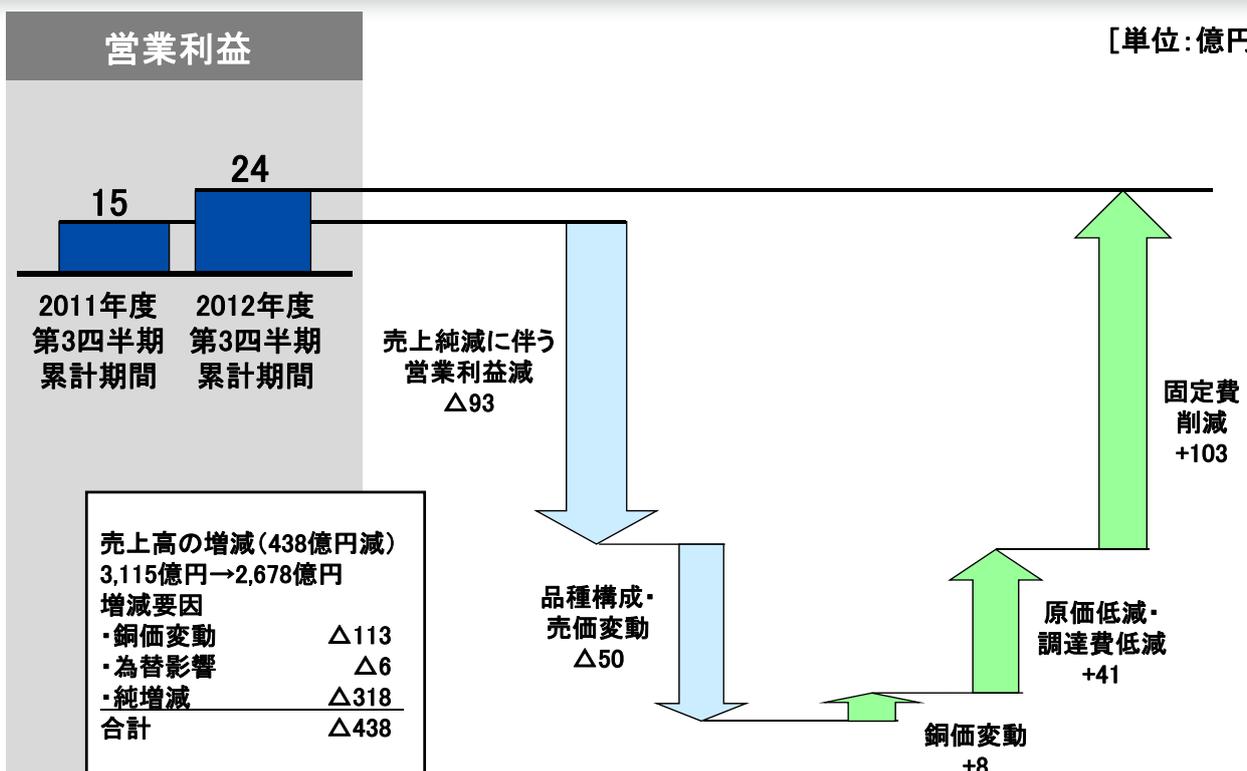
[単位: 億円]

	2011年度 第3四半期 累計期間	2012年度 第3四半期 累計期間	前年 同期比	見通し比※
売上高	3,115	2,678	(86%) △438	(100%) +8
営業利益	15	24	+9	+9
営業外損益	△10	10	+20	+14
経常利益	5	34	+29	+23
特別損益	△170	△107	+64	△71
税金等調整前 四半期純利益	△166	△73	+93	△48
法人税等	8	7	△1	△2
少数株主利益	2	2	△1	△0
四半期純利益	△176	△81	+95	△45

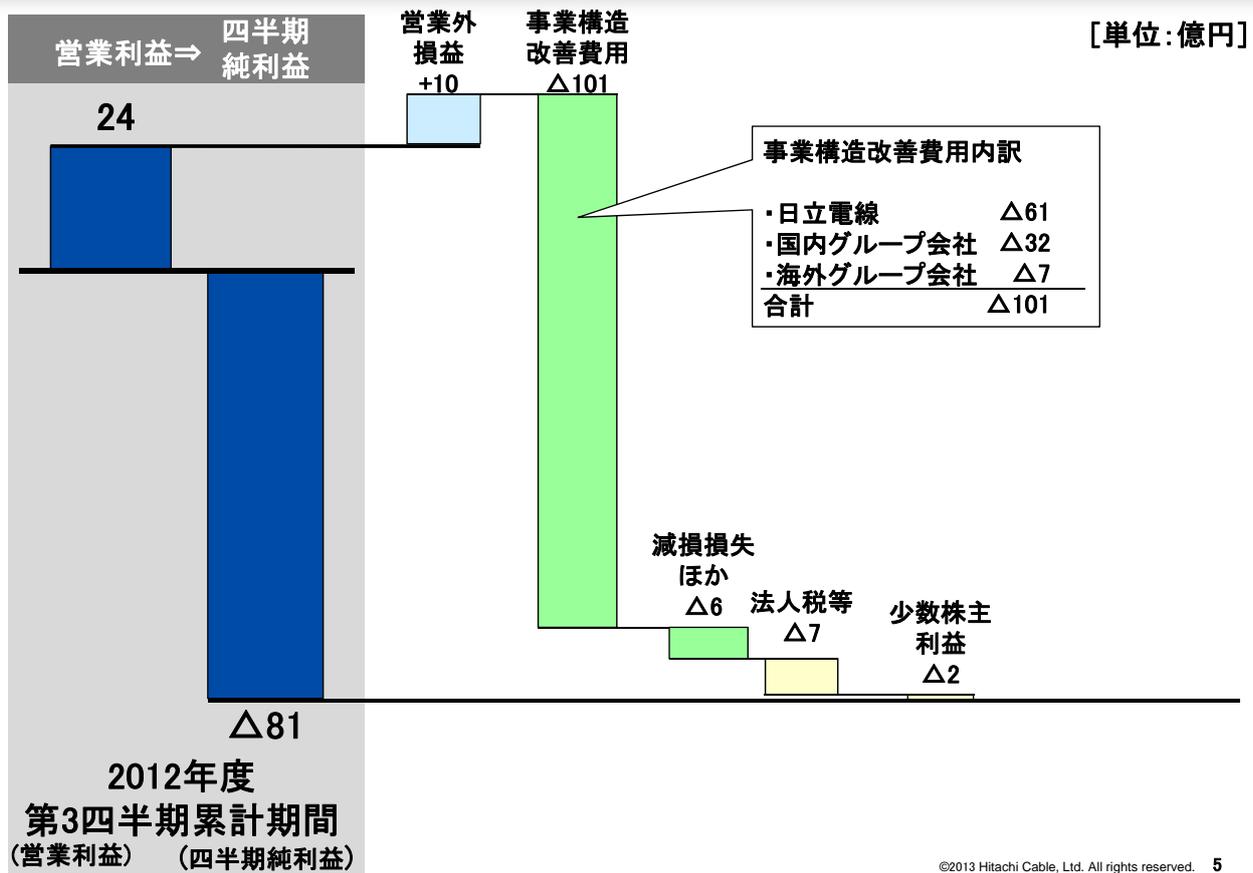
・2012年度第3四半期累計期間: 2012年4月1日～2012年12月31日
 ・単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。
 ※2012年10月29日時点予想値比

1-2. 営業利益の主な増減要因(前年同期比)

[単位: 億円]



1-3. 四半期純利益の主な内訳



1-4. 連結貸借対照表

[単位: 億円]

	2012年3月期末	2012年12月期末	前期末比
総資産	2,459	2,643	+184
負債合計	1,628	1,884	+256
うち有利子負債	502	528	+27
自己資本	812	739	△73
自己資本比率	33.0%	28.0%	△5.0%
D/Eレシオ	0.60	0.70	+0.10

(注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

1-5. 報告セグメント別売上高

[単位: 億円]

	2011年度 第3四半期 累計期間	2012年度 第3四半期 累計期間	前年 同期比	見通し比※
産業インフラ	887	815	92%	102%
電機・自動車部品	888	861	97%	100%
情報デバイス	340	305	90%	100%
金属材料	686	417	61%	98%
販売会社・物流	314	280	89%	100%
合計	3,115	2,678	86%	100%

※2012年10月29日時点予想値比

(注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

1-6. 報告セグメント別営業損益

[単位: 億円]

	2011年度 第3四半期 累計期間	2012年度 第3四半期 累計期間	前年 同期比	見通し比※
産業インフラ	△1	5	+5	△6
電機・自動車部品	9	25	+15	+5
情報デバイス	△1	9	+10	+4
金属材料	△15	△24	△8	+5
販売会社・物流	20	17	△3	+1
調整額	2	△8	△10	+0
合計	15	24	+9	+9

※2012年10月29日時点予想値比

(注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

1-7. 設備投資、研究開発費、従業員数等 HitachiCable

(1) 設備投資・減価償却費・研究開発費

[単位: 億円]

	2011年度 第3四半期 累計期間	2012年度 第3四半期 累計期間	前年同期比
設備投資	89	76	86%
減価償却費	121	91	75%
研究開発費 (売上高研究開発費比率)	66 (2.1%)	57 (2.1%)	87%

※当連結会計年度より、当社及び国内連結子会社における有形固定資産の減価償却方法を従来の定率法から定額法に変更しております。

(2) 従業員数(正規社員のみ)

[単位: 人]

	2012年3月末	2012年12月末	前期比
従業員数	14,142	12,728	△1,414

©2013 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 9

1-8. セグメント別概況: 産業インフラ HitachiCable

[単位: 億円]

	2011年度 第3四半期 (実績)	2012年度 第3四半期 (前回見通し)※	2012年度 第3四半期 (実績)	前年 同期比	見通し比
電力・産業システム	529	510	515	97%	101%
電子・通信材料	358	290	300	84%	103%
売上高 合計	887	800	815	92%	102%
営業利益	△1	11	5	+5	△6

電力・産業システム 【売上高】

建設用電線・ケーブルは堅調でしたが、耐熱電線や鉄道車両用電線・ケーブル等は国内で民間企業の設備投資や鉄道新設案件の需要が低調だったことから前年同期を下回りました。

電子・通信材料 【売上高】

光通信は、復興需要後の反動減があった前年同期と比較して増加しましたが、電子材料がエレクトロニクス機器向け及び半導体製造装置・工作機械向け製品が低調となったことにより、前年同期を下回りました。

営業利益

売上高は減少したものの、コスト削減効果等の影響により前年同期を上回りました。一方、耐熱電線や鉄道車両用電線・ケーブル等の売上減少により前回見通しを下回りました。

※2012年10月29日時点予想値

(注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

©2013 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 10

1-9. セグメント別概況：電機・自動車部品

[単位：億円]

	2011年度 第3四半期 (実績)	2012年度 第3四半期 (前回見通し)※	2012年度 第3四半期 (実績)	前年 同期比	見通し比
自動車部品	314	330	326	104%	99%
電機材料	575	530	535	93%	101%
売上高 合計	888	860	861	97%	100%
営業利益	9	20	25	+15	+5

自動車部品 【売上高】

国内では新エコカー補助金の終了により当第3四半期の需要が減少しましたが、北米を中心に世界的に自動車販売台数が増加していることや、注力分野である電装部品が伸長したことにより、前年同期を上回りました。

電機材料 【売上高】

電装分野向けは、国内の新エコカー補助金終了の影響により減少しました。重電分野向けは柱上変圧器向けが堅調でしたが、一般・産業用は海外需要の鈍化により減少しました。加えて、電機材料全体では主要な原材料である銅の価格が前年同期と比較して低水準であったことから、前年同期を下回りました。

営業利益

売上高は減少したものの、コスト削減効果や注力分野である電装部品の伸長により前年同期および見通しを上回りました。

※2012年10月29日時点予想値

(注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

©2013 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 11

1-10. セグメント別概況：情報デバイス

[単位：億円]

	2011年度 第3四半期 (実績)	2012年度 第3四半期 (前回見通し)※	2012年度 第3四半期 (実績)	前年 同期比	見通し比
情報ネットワーク	184	190	190	103%	100%
ワイヤレスシステム	76	80	78	103%	98%
化合物半導体	79	35	37	46%	105%
売上高 合計	340	305	305	90%	100%
営業利益	△1	5	9	+10	+4

情報ネットワーク 【売上高】

光伝送デバイスが在庫調整により減少し、ネットワークインテグレーション事業も大口案件の減少により前年同期を下回りましたが、ネットワーク機器が携帯電話事業者の設備投資需要により好調だったことから、全体としては前年同期を上回りました。

ワイヤレスシステム 【売上高】

放送用アンテナシステムが減少しましたが、プラチナバンドと呼ばれる周波数帯の新規認可に対応した携帯電話事業者向け製品・工事が好調だったため、全体としては前年同期を上回りました。

化合物半導体 【売上高】

光デバイスは光ディスク需要の低迷により低調となり、高周波デバイス用も代替素材との競合等の影響により落ち込み、前年同期を大きく下回りました。

営業利益

売上高は減少したものの、コスト削減効果や品種構成の改善等により前年同期および見通しを上回りました。

※2012年10月29日時点予想値

(注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

©2013 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 12

1-11. セグメント別概況：金属材料

[単位：億円]

	2011年度 第3四半期 (実績)	2012年度 第3四半期 (前回見通し)※	2012年度 第3四半期 (実績)	前年 同期比	見通し比
銅条	231	190	184	80%	97%
電伸	294	140	135	46%	97%
リードフレーム	94	70	73	78%	104%
パッケージ材料	68	25	24	36%	97%
売上高 合計	686	425	417	61%	98%
営業利益	△15	△29	△24	△8	+5

銅条 【売上高】	銅箔は、携帯端末用途が順調に推移したものの、車載用途が当第3四半期は在庫調整により減少しました。また、半導体・エレクトロニクス市場向け銅条の減少が続き、全体としては前年同期を下回りました。
電伸 【売上高】	国内銅管事業撤退に加え、電気用伸銅品・加工品が国内設備投資需要の減少の影響を受けたことや、超電導線も国際プロジェクト向け出荷が減少したことから前年同期を下回りました。
リードフレーム 【売上高】	半導体・エレクトロニクス市場向け製品の需要落ち込みが継続したことに加え、東南アジア地区の事業再編に伴う生産縮小により、前年同期を下回りました。
パッケージ材料 【売上高】	メモリー用途及び特定用途とも低水準となり、前年同期を下回りました。
営業利益	売上高減少の影響が大きく、前年同期を下回りました。

※2012年10月29日時点予想値

(注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

©2013 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 13

目次

1. 2013年3月期第3四半期決算の概要
2. 2013年3月期決算の見通し
3. 事業構造改革進捗状況

2-1. 2013年3月期決算の見通し

[単位: 億円]

	2012年3月期 (実績)	2013年3月期 (前回予想)※	2013年3月期 (今回予想)	前期比	見通し比
売上高	4,325	3,600	3,600	(83%) △725	(100%) 0
営業利益	20	40	40	+20	0
営業外損益	△10	0	15	+25	+15
経常利益	9	40	55	+46	+15
特別損益	△221	△115	△160	+61	△45
税金等調整前 当期純利益	△211	△75	△105	+106	△30
法人税等・ 少数株主利益	16	15	25	+9	+10
当期純利益	△228	△90	△130	+98	△40

・2012年3月期(実績): 銅価72万円/トン 為替79円/ドル

・2013年3月期(今回予想) 第1～第3四半期(実績): 銅価67万円/トン 為替80円/ドル、第4四半期(予想): 銅価70万円/トン 為替88円/ドル

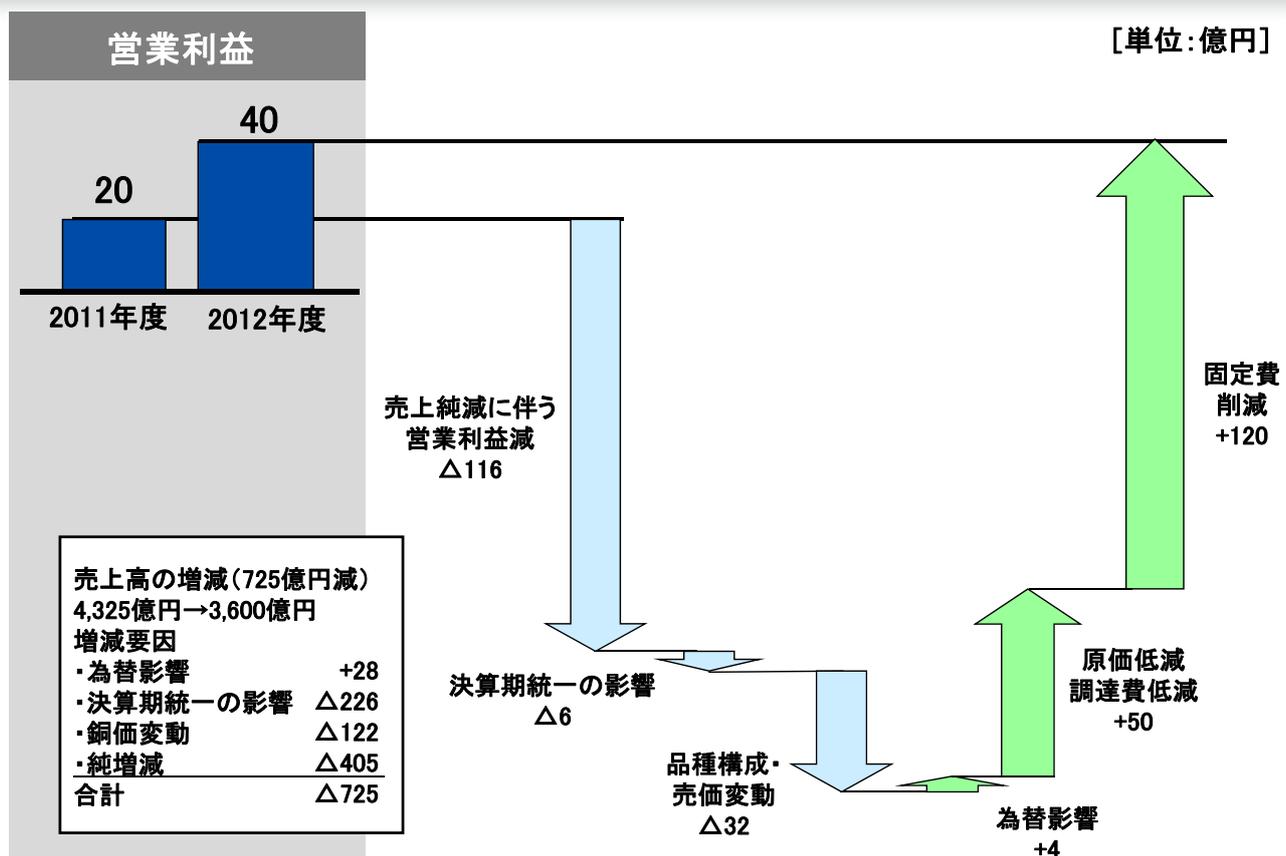
・2012年3月期(実績)には海外連結子会社の決算期統一による影響が含まれております。

※2012年10月29日予想値

©2013 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 15

2-2. 営業利益の主な増減要因(前年比)

[単位: 億円]



©2013 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 16

2-3. 報告セグメント別売上高の見通し

[単位:億円]

	2012年3月期 (実績)	2013年3月期 (前回見通し)※	2013年3月期 (今回見通し)	前期比	見通し比
電力・産業システム	704	660	670	95%	102%
電子・通信材料	496	370	385	78%	104%
産業インフラ	1,200	1,030	1,055	88%	102%
自動車部品	505	450	445	88%	99%
電機材料	827	720	725	88%	101%
電機・自動車部品	1,332	1,170	1,170	88%	100%
情報ネットワーク	273	290	285	104%	98%
ワイヤレスシステム	112	130	120	107%	92%
化合物半導体	95	50	50	53%	100%
情報デバイス	480	470	455	95%	97%
銅条	291	230	230	79%	100%
電伸	367	190	190	52%	100%
リードフレーム	131	95	95	73%	100%
パッケージ材料	76	35	35	46%	100%
金属材料	865	550	550	64%	100%
販売会社・物流	448	380	370	83%	97%
合計	4,325	3,600	3,600	83%	100%

・2012年3月期(実績):銅価72万円/トン 為替79円/ドル
 ・2013年3月期(今回予想)第1～第3四半期(実績):銅価67万円/トン 為替80円/ドル、第4四半期(予想):銅価70万円/トン 為替88円/ドル
 ・2012年3月期(実績)のセグメント別数値は会計監査人によるレビュー手続きは行っておりません。
 ・2012年3月期(実績)には海外連結子会社の決算期統一による影響が含まれております。
 ・上記表中の数値は、2012年10月1日からの新セグメントへの組み替え後の数値を表示しております。
 ※2012年10月29日予想値

©2013 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 17

2-4. 報告セグメント別営業損益の見通し

[単位:億円]

	2012年3月期 (実績)	2013年3月期 (前回見通し)※	2013年3月期 (今回見通し)	前期比	見通し比
産業 インフラ	△4	20	10	+14	△10
電機・ 自動車部品	19	30	35	+16	+5
情報 デバイス	5	20	20	+15	0
金属材料	△21	△40	△30	△9	+10
販売会社・物流	28	20	20	△8	0
調整額	△8	△10	△15	△7	△5
合計	20	40	40	+20	0

・2012年3月期(実績):銅価72万円/トン 為替79円/ドル
 ・2013年3月期(今回予想)第1～第3四半期(実績):銅価67万円/トン 為替80円/ドル、第4四半期(予想):銅価70万円/トン 為替88円/ドル
 ・2012年3月期(実績)のセグメント別数値は会計監査人によるレビュー手続きは行っておりません。
 ・2012年3月期(実績)には海外連結子会社の決算期統一による影響が含まれております。
 ・上記表中の数値は、2012年10月1日からの新セグメントへの組み替え後の数値を表示しております。
 ※2012年10月29日予想値

©2013 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 18

2-5. 設備投資、研究開発費、従業員数等 HitachiCable

(1) 設備投資・減価償却費・研究開発費

[単位: 億円]

	2012年3月期 (実績)	2013年3月期 (前回見通し)※	2013年3月期 (今回見通し)	前期比	見通し比
設備投資	129	110	110	85%	100%
減価償却費	167	125	125	75%	100%
研究開発費 (売上高研究開発費比率)	88 (2.0%)	90 (2.5%)	90 (2.5%)	103%	100%

※当連結会計年度より、当社及び国内連結子会社における有形固定資産の減価償却方法を従来の定率法から定額法に変更しております。
 ※2012年10月29日予想値

(2) 従業員数(正規社員のみ)

[単位: 人]

	2012年3月末	2013年3月末 (今回見通し)	前期比
従業員数	14,142	11,250	△2,892

©2013 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 19

2-6. 補足: 報告セグメント別売上高の見通し

HitachiCable

[単位: 億円]

	2012年3月期 (実績)	決算期統一の 影響	2012年3月期 (決算期統一影響除く)	2013年3月期 (今回予想)	前期比
	A	B	C=A-B	D	D/C
電力・産業システム	704	0	704	670	95%
電子・通信材料	496	28	468	385	82%
産業インフラ	1,200	28	1,172	1,055	90%
自動車部品	505	81	424	445	105%
電機材料	827	71	756	725	96%
電機・自動車部品	1,332	152	1,180	1,170	99%
情報ネットワーク	273	0	273	285	104%
ワイヤレスシステム	112	0	112	120	107%
化合物半導体	95	2	93	50	54%
情報デバイス	480	2	478	455	95%
銅条	291	0	291	230	79%
電伸	367	0	367	190	52%
リードフレーム	131	9	122	95	78%
パッケージ材料	76	0	76	35	46%
金属材料	865	9	856	550	64%
販売会社・物流	448	36	413	370	90%
合計	4,325	226	4,100	3,600	88%

・2012年3月期(実績): 銅価72万円/トン 為替79円/ドル
 ・2013年3月期(今回予想) 第1~第3四半期(実績): 銅価67万円/トン 為替80円/ドル、第4四半期(予想): 銅価70万円/トン 為替88円/ドル
 ・2012年3月期(実績)のセグメント別数値は会計監査人によるレビュー手続きは行っておりません。
 (注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

©2013 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 20

[単位:億円]

	2012年3月期 (実績)	決算期統一の 影響	2012年3月期 (決算期統一 影響除く)	2013年3月期 (予想)	前期比
	A	B	C=A-B	D	D-C
産業インフラ	△4	△1	△3	10	+13
電機・自動車部品	19	6	14	35	+21
情報デバイス	5	△0	6	20	+15
金属材料	△21	△1	△21	△30	△10
販売会社・物流	28	2	26	20	△6
調整額	△8	△0	△8	△15	△7
合計	20	6	14	40	+26

・2012年3月期(実績):銅価72万円/トン 為替79円/ドル
 ・2013年3月期(今回予想)第1～第3四半期(実績):銅価67万円/トン 為替80円/ドル、第4四半期(予想):銅価70万円/トン 為替88円/ドル
 ・2012年3月期(実績)のセグメント別数値は会計監査人によるレビュー手続きは行っておりません。
 (注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

©2013 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 21

目次

1. 2013年3月期第3四半期決算の概要
2. 2013年3月期決算の見通し
3. 事業構造改革進捗状況

3-1. 事業構造改革進捗状況①

■事業の選択と集中

アライアンス	<ul style="list-style-type: none"> 住友金属鉱山とのアライアンスによる伸銅・リードフレームの事業強化(2013年度完了予定) 中天グループとの戦略的・包括的アライアンスによる電線事業の強化・拡大(2013年度継続)
事業体制再編	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジア地域の生産拠点を整理 [リードフレーム:3⇒1拠点][機器用電線:3⇒1拠点] (2012年度完了予定) 電子材料事業、電機材料事業、工業用ゴム事業の設計・開発業務を日立電線に集約 (2013年3月完了予定) 工業用ゴム事業の生産をフィリピン工場と東北ゴムに集約[4⇒2拠点](2013年3月完了予定)
生産拠点集約	<ul style="list-style-type: none"> 東日京三電線の生産拠点を集約[2⇒1拠点] (2013年3月完了予定)
事業譲渡	<ul style="list-style-type: none"> 物流子会社を日立物流に譲渡(2013年3月完了予定)

3-2. 事業構造改革進捗状況②

■コスト削減施策

経費削減	<ul style="list-style-type: none"> 日立電線本社オフィスを移転(2013年3月予定) 日立電線と日立電線商事の大阪、中部事業所を同床化(2012年10月完了)
------	--

■国内人員の適正化

国内人員	<ul style="list-style-type: none"> 早期退職の実施:1,112人[社外出向者含む] (2012年12月～2013年3月) 社外出向、転籍:約110人(2012年10月～2013年3月)
------	---

・従業員数見通し(非正規社員、派遣社員等含む) [単位:人]

	2012年3月末	2013年3月末	増減
国内	7,700	5,550	△2,150
海外	7,700	6,500	△1,200
合計	15,400	12,050	△3,350

【参考資料】減価償却費、従業員数等(連結)

(1) 減価償却費ほか

[単位: 百万円]

	平成24年3月期				平成25年3月期			
	第1四半期累計 (4~6月)	第2四半期累計 (4~9月)	第3四半期累計 (4~12月)	年度 累計	第1四半期累計 (4~6月)	第2四半期累計 (4~9月)	第3四半期累計 (4~12月)	年度 累計 【予想】
産業インフラ	1,057	2,142	3,264	4,629	880	1,759	2,654	3,500
電機・自動車部品	812	1,655	2,505	3,692	699	1,414	2,244	2,800
情報デバイス	887	1,819	2,757	3,739	671	1,255	1,850	3,000
金属材料	1,150	2,336	3,322	4,336	704	1,420	2,156	2,900
販売会社・物流	75	157	237	320	61	123	181	300
減価償却費合計	3,981	8,109	12,085	16,716	3,015	5,971	9,085	12,500
産業インフラ	766	1,823	2,858	4,630	758	1,599	2,201	3,200
電機・自動車部品	609	1,329	1,856	2,980	631	1,349	2,161	2,300
情報デバイス	566	1,313	1,961	2,587	580	1,203	1,981	3,200
金属材料	545	1,142	1,994	2,495	312	796	1,209	2,100
販売会社・物流	41	119	195	241	35	41	66	200
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額合計 (資本的支出)	2,527	5,726	8,864	12,933	2,316	4,988	7,618	11,000
研究開発費	2,166	4,411	6,573	8,776	1,877	3,798	5,729	9,000
売上高研究開発費比率	2.1%	2.1%	2.1%	2.0%	2.1%	2.1%	2.1%	2.5%
有利子負債	51,297	53,903	54,055	50,176	47,989	48,386	52,845	56,000
金融収支	△ 144	△ 275	△ 451	△ 703	△ 110	△ 216	△ 363	△ 700

※当連結会計年度より、当社及び国内連結子会社における有形固定資産の減価償却方法を従来の定率法から定額法に変更しております。

(2) 従業員数(正規社員のみ)

[単位: 人]

	平成23年 6月末	平成23年 9月末	平成23年 12月末	平成24年 3月末	平成24年 6月末	平成24年 9月末	平成24年 12月末	平成25年 3月末 【予想】
産業インフラ	6,395	6,404	6,313	5,344	4,907	4,984	4,305	—
電機・自動車部品	4,569	4,532	4,450	4,352	4,117	4,065	4,209	—
情報デバイス	1,174	1,166	1,135	1,035	1,028	1,016	981	—
金属材料	1,950	1,858	1,799	1,665	1,505	1,499	1,459	—
販売会社・物流	1,095	1,090	1,052	1,090	1,115	1,123	1,107	—
全社共通	775	769	744	656	650	644	667	—
従業員数合計	15,958	15,819	15,493	14,142	13,322	13,331	12,728	11,250

本資料における業績見通し等の数値は、2013年2月1日現在の予想または目標であり、当社が本資料作成時点において合理的と判断する一定の前提に基づいて算出しております。したがって、実際の業績は予想・目標と大きく異なることがあります。その要因のうち主なものは、次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米国、アジア)における経済状況
- ・急激な技術変化、新製品・新技術の開発、タイムリーな市場投入、低コスト生産を実現する当社及びグループ会社の能力
- ・製品・材料市場、製品・材料市況の変動
- ・為替相場変動
- ・資金調達環境
- ・製品・材料需給、製品・材料市場及び為替相場等の変動に対する当社及びグループ会社の能力
- ・自社特許の保護及び他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・株式相場変動

本資料内に記載されたブランド名は、各所有者の商標または登録商標です。

(著作権について)

この資料のいかなる部分についても、その著作権その他の一切の権利は、日立電線株式会社に属しており、方法のいかんを問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

(お問い合わせ先)
総務部広報グループ 木暮、坪内
電話 03-6381-1050